

平成17年度事業報告書

1. 平成17年度優秀業績の表彰

平成17年度優秀業績については慎重に検討された結果、

奥田真珠美（和歌山労災病院小児科） 他10名

「Bovine lactoferrin is effective to suppress *Helicobacter pylori* colonization in the human stomach: a randomized, double-blind, placebo-controlled study」

(Journal of Infection and Chemotherapy Vol.11.No.6,p265-269,2005)

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

瀧永博之（国立国際医療センターエイズ治療研究開発センター） 他3名

「Mutations other than 103N in human immunodeficiency virus type 1 reverse transcriptase(RT) emerge from K103R polymorphism under non-nucleoside RT inhibitor pressure」

(Virology、Vol.344,354-362, 2005)

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

2. 講演会

平成17年4月14日、15日、名古屋市・名古屋国際会議場において第79回学術講演会を品川長夫会長主宰のもとに開催した。

a	会員の業績研究発表		374題
b	特別講演		3題
	免疫システムの新たな実態：基本免疫と獲得免疫	日本医科大学微生物学免疫学教室 座長：名古屋市立大学	高橋 秀実 馬場 駿吉
	生体肝移植を受けて	独立行政法人国立病院機構三重病院 座長：名古屋市立緑市民病院	神谷 齊 品川 長夫
	Neglected Infectious Diseases—取り残された感染症の問題を考える—	名古屋市立大学大学院医学研究科宿主・寄生体関係分野 座長：松波総合病院	太田 伸生 由良 二郎
c	招請講演		2題
	1 動物由来感染症への対策	東京大学農学生命科学研究科 座長：宗像医師会病院	吉川 泰弘 草場 公宏
	2 家畜衛生分野における耐性菌の現状と今後の対応について	農林水産省動物医薬品検査所検査第二部抗生物質製剤検査室 座長：財団法人日本抗生物質学術協議会	高橋 敏雄 八木澤守正
d	特別報告		1題
	感染症情報Update	国立感染症研究所感染症情報センター 座長：国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター	岡部 信彦 木村 哲
e	教育講演		9題
	1 臨床の現場で監視すべき新型耐性菌とその識別法	国立感染症研究所細菌第二部 座長：大阪大学微生物病研究所	荒川 宜親 本田 武司
	2 新しい結核対策	財団法人結核予防会結核研究所 座長：財団法人淳風会倉敷第一病院呼吸器センター	森 亨 松島 敏春
	3 トリコスポロン症の臨床	大分大学医学部感染分子病態制御講座 座長：川崎医科大学呼吸器内科	時松 一成 二木 芳人
	4 <i>Helicobacter pylori</i> 除菌の一般化とその後の話題	杏林大学医学部第三内科 座長：大分大学医学部感染分子病態制御講座	高橋 信一 那須 勝
	5 <i>Clostridium difficile</i> 関連下痢症/腸炎およびその院内感染の細菌学的検査解析	国立感染症研究所細菌第二部 座長：市立藤井寺市民病院	加藤 はる 藤本 幹夫
	6 緑膿菌の上皮細胞への侵入	長崎大学医学部・歯学部附属病院検査部 座長：名古屋大学大学院医学研究科微生物・免疫学	平潟 洋一 太田美智男
	7 嫌気性菌感染症に関する最近の話題	岐阜大学生命科学総合実験センター・嫌気性菌実験分野 座長：京都薬科大学微生物学教室	渡邊 邦友 西野 武志
	8 MRSA訴訟からの教訓	三輪亮寿法律事務所 座長：東邦大学医学部外科学第三講座	三輪 亮寿 炭山 嘉伸
	9 HIV感染症治療の現状と展望	国立国際医療センターエイズ治療研究開発センター 座長：大阪市立総合医療センター感染症センター	岡 慎一 阪上 賀洋
f	シンポジウム		3題
	1 母子感染	司会：愛知医科大学産婦人科 藤田保健衛生大学小児科	野口 昌良 浅野 喜造
	1) 子宮内感染症と胎盤病理	大阪府立母子保健総合医療センター	中山 雅弘

2) 予防できる先天異常—先天性風疹症候群の撲滅に向けて	名古屋大学大学院医学研究科生殖・遺伝医学講座生殖・発生医学分野	種村 光代
3) HSV母子感染	名古屋大学大学院医学系研究科小児科学	木村 宏
4) クラミジア・トラコマチス(クラミジア)の母子感染	愛知医科大学産婦人科学教室	野口 靖之
5) B型肝炎ウイルス母子感染予防法の見直し—対策漏れゼロを目指して—	獨協医科大学産婦人科	稲葉 憲之
6) HIVの母子感染	三重県立総合医療センター産婦人科	谷口 晴記
2 ウイルス感染症の病態・診断・治療に関する最近の進歩	司会：京都大学医学部保健学科 東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野	笹田 昌孝 岩本 愛吉
1) ウイルス感染症の新たな病態	愛媛大学医学部第1内科	安川 正貴
2) 治療薬としての酵素阻害剤の開発	京都薬科大学創薬科学フロンティア研究センター	木曾 良明
3) HIVの診断	神奈川県衛生研究所	今井 光信
4) C型肝炎の治療	東京大学医学部感染症内科	小池 和彦
5) 骨髄移植後のウイルス感染症の診断と治療	国家公務員共済組合連合会浜の町病院血液・腫瘍センター	権藤 久司
3 感染症診療におけるプロバイオティクスの意義	司会：杏林大学医学部感染症学 東邦大学医学部微生物学 杏林大学医学部感染症学 株式会社ヤクルト本社中央研究所 東邦大学医学部微生物学 東邦大学医学部外科学第三講座 順天堂大学伊豆長岡病院新生児センター 岡山大学大学院医歯学総合研究科泌尿器病態学	神谷 茂 松本 哲哉 神谷 茂 野本 康二 松本 哲哉 吉田 祐一 志賀 清悟 門田 晃一
g ワークショップ		6 題
1 抗菌薬使用のガイドライン—内科系—	司会：東京慈恵会医科大学内科学 北里大学医学部感染症学 東京女子医科大学衛生学公衆衛生学 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染分子病態学講座 川崎医科大学小児科学2講座 新潟市民病院感染症科 石心会狭山病院小児科 神奈川県社会保険診療報酬支払基金 日本医師会常任理事 医薬品医療機器総合機構	柴 孝也 砂川 慶介 山口 直人 河野 茂 尾内 一信 吉川 博子 豊永 義清 松本 文夫 松原 謙二 佐藤 淳子
1) 他領域の診療・治療のガイドラインの現状と問題点		下方 薫
2) 作成の立場から 内科領域		飯沼 由嗣
小児科領域		藤田 直久
3) 使用する立場から 内科		石田 直
小児科		亀井 聡
4) 保険審査の立場から		大西 健児
5) 特別発言 医師会の立場から		上 昌広
行政の立場から		
2 感染症診断の検査とタイミング	司会：名古屋大学大学院医学研究科機能調節内科学 京都大学医学研究科臨床病態検査学 京都府立医科大学臨床分子病態・検査医学 倉敷中央病院呼吸器内科 日本大学医学部内科学講座神経内科部門 東京都立墨東病院感染症科 国立がんセンター中央病院幹細胞療法室	斎藤 厚 後藤 元 横山 隆 横山 隆 守殿 貞夫 玉舎 輝彦 草地 信也
1) 感染症検査の進歩と展望(抗原検査, 遺伝子検査含む)		竹末 芳生
2) 呼吸器感染症の診断		荒川 創一
3) 中枢神経系感染症の診断		松本 哲朗
4) 輸入感染症の診断		藤原 道久
5) 移植患者における感染症の診断		
3 原因菌の変遷からみた抗菌薬の選択—過去の分析から提言へ—	司会：琉球大学大学院医学研究科感染病態制御学 杏林大学医学部第一内科 広島市安芸市民病院	三鴨 廣繁 荒川 創一 三鴨 廣繁
1) 内科系から		
2) 外科系から		
4 抗菌薬使用のガイドラインを考える—外科系において—	司会：広島市安芸市民病院外科 神戸大学大学院医学研究科腎泌尿器科学 岐阜大学大学院女性生殖科学 東邦大学医学部外科学第三講座 広島大学大学院病態制御医学講座外科 神戸大学医学部附属病院手術部 産業医科大学泌尿器科 川崎医科大学附属川崎病院産婦人科 岐阜大学医学部附属病院成育医療科・女性科/ 岐阜大学生命科学総合実験センター嫌気性菌実験分野	横山 隆 守殿 貞夫 玉舎 輝彦 草地 信也 竹末 芳生 荒川 創一 松本 哲朗 藤原 道久 三鴨 廣繁 荒川 創一 三鴨 廣繁
1) 消化器外科周術期感染予防		
2) 腹腔内感染に対する抗菌薬使用：欧米のガイドラインと日本の考え方との違い		
3) 泌尿器科周術期感染予防		
4) 性・尿路感染症		
5) 産婦人科周術期感染予防		
6) 婦人科領域感染症		
5 日常診療において知っておくべき感染症—骨盤内・後腹膜臓器編—	司会：神戸大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学 岐阜大学生命科学総合実験センター嫌気性菌実験分野	中野 雄造 石川 清仁
性器感染症		
1) 男子尿道炎(淋菌性・非淋菌性)	兵庫医科大学泌尿器科学分野	山本 新吾
2) 性器結核	岐阜大学大学院医学研究科・医学部腫瘍制御学講座女性生殖科学分野	安田 香子
骨盤内感染症		
1) クラミジア感染症	京都市立病院産婦人科	岩破 一博
2) 骨盤内放線菌症	産業医科大学産婦人科	吉村 和晃
後腹膜臓器感染症		
1) 膿腎症の臨床-敗血症に至った自験3例を中心に-	神戸大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学	中野 雄造
2) 特殊型腎盂腎炎	藤田保健衛生大学病院泌尿器科	石川 清仁

- 6 日常遭遇する感染症・稀だが知っておきたい感染症：外科領域 司会：広島大学大学院病態制御医科学講座外科 竹末 芳生
東邦大学医学部外科学第三講座 草地 信也
東海大学医学部付属八王子病院口腔外科 坂本 春生
広島赤十字原爆病院歯科口腔外科 明見 能成
広島大学大学院病態制御医科学講座外科 大垣市民病院外科 渡橋 和政
大垣市民病院外科 磯谷 正敏
東京慈恵会医科大学附属青戸病院外科 敵村 泰樹
千葉大学大学院救急集中治療医学 織田 成人
東邦大学医学部外科学第三講座 有馬 陽一
大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター 嶋津 岳士
- h インターアクティブ・カンファレンス 1 題
目で見える感染症 オーガナイザー：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部感染分子病態学講座 河野 茂
- i サテライトセミナー 1 題
第4回Infection Control Seminar ナビゲーター 東北大学大学院医学系研究科内科病態講座感染制御・検査診断学分野 賀来 満夫
- j 教育セミナー 1 1 題
- 1 呼吸器感染症の臨床・画像診断—画像所見による起炎菌の推定と治療指針— 香川大学医学部第一内科 藤田 次郎
座長：倉敷中央病院呼吸器内科 石田 直
- 2 SARS専門病院における院内感染と臨床について 中日友好病院臨床検査部 張 遼春
座長：うしお病院 岩井 重富
- 3 Febrile Neutropenia診療に関する現状と課題 福岡大学第一内科 田村 和夫
座長：大阪府立成人病センター 正岡 徹
- 4 慢性上下気道感染よりの検出菌とその治療戦略—副鼻腔炎を中心として— 藤田保健衛生大学第二教育病院耳鼻咽喉科 鈴木 賢二
座長：奈良県立医科大学感染症センター 三笠 桂一
滋賀医科大学救急集中治療部 江口 豊
- 5 敗血症性臓器障害の病態・診断と治療—血管内皮細胞障害の見地から— 座長：慶應義塾大学医学部救急医学 相川 直樹
- 6 薬剤耐性菌クライシス—CA-MRSAの現状とその問題点 亀田総合病院アレルギー感染症内科 岩田健太郎
新潟大学大学院医歯学総合研究科国際感染医学講座細菌学分野 山本 達男
座長：東北大学大学院医学系研究科内科病態講座感染制御・検査診断学分野 賀来 満夫
- 7 感染症治療における注意すべき宿主側要因 帝京大学医学部微生物学講座 斧 康雄
座長：杏林大学医学部第一内科 後藤 元
- 8 高齢者肺炎と院内肺炎治療の実際—主として注射用カルバペネム薬を中心に— 信楽園病院呼吸器内科 青木 信樹
座長：聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 嶋田甚五郎
- 9 SSIサーベイランス～外科医の協力を得るためには～ NTT関東病院外科 針原 康
座長：東邦大学医学部外科学第三講座 炭山 嘉伸
- 10 耐性菌を生み出さない抗菌薬治療—緑膿菌を中心に— 大阪大学大学院医学系研究科感染制御部 朝野 和典
座長：東北大学大学院医学系研究科内科病態講座感染制御・検査診断学分野 賀来 満夫
- 11 日米の造血幹細胞移植時の感染症対策—真菌感染症を中心に— 九州大学第一内科 福田 隆浩
座長：国家公務員共済組合連合会虎の門病院血液科 谷口 修一
- k ICD講習会 1 題
細菌学からみた院内感染対策 自治医科大学感染・免疫学講座細菌学部門 平井 義一
座長：名古屋市港保健所 鈴木 幹三
院内感染対策Update—始めたこと止めたこと— 福岡和仁会病院 向野 賢治
県西部浜松医療センター感染症科 矢野 邦夫
市立堺病院総合内科 藤本 卓司
NTT西日本東海病院外科 大久保 憲
座長：鳥取県立厚生病院 藤井 昭
NTT西日本東海病院外科 大久保 憲

3. 雑誌刊行

感染症学雑誌 第79巻1号より逐次刊行した。

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.11, No.1より逐次刊行した。

地方会総会プログラムを感染症学雑誌に掲載。

抗菌薬使用のガイドライン 発行。

4. 地方会

・第54回東日本地方会総会は、平成17年10月27日、28日の両日、小野寺昭一会長のもとで第52回日本化学療法学会東日本支部総会（生方公子会長）と合同で東京都・東京ドームホテルで行われた。

会長講演 2題、特別講演 1題、招請講演 2題、緊急報告 1題、シンポジウム 2題、ICD講習会 1題

ランチョンセミナー 12題、コーヒープレイクセミナー 2題、サテライトセミナー 2題、

ベーシックレクチャー 1題

一般演題 152題

参加人数 1230名

- ・第48回中日本地方会総会は、平成17年11月5日、鈴木幹三会長のもとで名古屋市・名古屋市立大学病院・医学部研究棟で行われた。
招請講演 1題、特別講演 1題、教育講演 1題、教育セミナー 3題、学術奨励賞 2題
一般演題 56題
参加人数 200名
- ・第75回西日本地方会総会は、平成17年11月17日、18日の両日、河野 茂会長のもとで長崎市・長崎ブリックホールで行われた。
招請講演 2題、特別講演 1題、教育講演 1題、シンポジウム 1題、感染症優秀論文賞講演 1題
西日本感染症・化学療法学会合同シンポジウム 1題、教育セミナー 6題、ICD講習会 1題
一般演題 90題
参加人数 377名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

札幌医科大学大講堂	(医師)	平成17年 10月17日、18日	93名
	(看護師)	平成17年 10月17日、18日	96名
文京シビックホール 小ホール	(医師)	平成17年 9月28日、29日	87名
	(看護師)	平成17年 9月28日、29日	93名
京都大学百周年時計台記念館 (百周年記念ホール)	(医師)	平成17年 9月 3日、 4日	87名
	(看護師)	平成17年 9月 3日、 4日	100名
九州大学医学部百年記念講堂	(医師)	平成17年 10月22日、23日	92名
	(看護師)	平成17年 10月22日、23日	97名
合 計			745名

2) 講習内容

(医師)	血液媒介感染等	40分
	院内感染関連微生物学	1時間10分
	院内感染対策Ⅰ	1時間40分
	院内感染対策Ⅱ	1時間40分
	院内感染関連法令	30分
	院内感染の薬物療法	1時間20分
	院内感染対策のシステム化	1時間10分
	SARSの院内感染対策	40分
(看護師)	パネルディスカッション	1時間45分
	血液媒介感染等	40分
	院内感染関連微生物学	1時間10分
	消毒および滅菌の基礎と実際	1時間10分
	環境管理	1時間40分
	院内感染関連法令	30分
	感染防止の実際	1時間20分
	看護管理上の対応	1時間10分
	SARSの院内感染対策	40分
	パネルディスカッション	1時間45分

6. 施設内MRSA対策相談窓口業務

平成17年 3月1日～平成17年3月31日	質問件数	1件
平成17年 4月1日～平成18年2月28日	質問件数	87件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 36名

										敬称略					
青島 正大	足立 拓也	池島 秀明	石川 崇彦	井上 仁	大石 毅	大石 智洋	大原 尚子	川上 恵基	川端 厚	菊地 利明	木村 琢磨	國島 広之	河野 政志	子川 和宏	小林 治
古谷野 伸	白石 京子	関根 秀明	高木 和貴	高城 一郎	田辺 嘉也	塚原 宏一	富永 正樹	二宮 清	羽田 敦子	畠山 修司	古庄 憲浩	星野 直	堀野 哲也	松川 雅則	三嶋 廣繁
村川 幸市	矢田健一郎	山口 禎夫	山崎 善隆												

2) 更新者 110名

3) 今後の専門医制度の整備

1. 専門医の現状の課題

感染症学会という学際的な学会における専門医とは、院内外でおこる様々な感染症の診断・治療・予防あるいは感染対策やこれらに関するコンサルテーション等に充分対応できる臨床医である。しかし、本学会では平成17年より基本領域学会を拡大したが、今後も基本領域に関わらず、感染症全般に関する知識と実践に優れた臨床医を感染症専門医と位置付け育成していくこととする。したがって、呼称は、感染症専門医（基本領域）とする意見もあったが「感染症専門医」とする。

2. 指導医と研修施設

新たに設置することになった指導医と研修施設の資格については下記のようにした。

指導医については、感染症全般を適正に指導できることを求め、以下の各項を満たすこととする。

- (1) 感染症専門医を取得後5年を経た者。
- (2) 本学会の研修カリキュラムに基づく研修を指導できる者。

また、研修施設の備えるべき要件として、以下の3項目を満たすこととする。

- (1) 医育機関附属病院、総合病院、またはこれに準ずる病院であること
- (2) 日本感染症学会指導医が1名以上常勤していること
- (3) 本学会の研修カリキュラムに基づく研修が可能であること

なお、申請に際して申請料は不要とした。

3. 研修内容の評価と課題

研修カリキュラムは「感染症専門医試験の出題範囲」に基づいて作成し、それに沿って、指導医の下で3年間研修を行うこととする。

研修内容については、研修カリキュラムに自己評価と指導医評価のチェック欄を設ける。専門医資格申請の際に研修内容報告書の提出を求め、本審議会に於いて研修内容について審査する。

今後の感染症の研修内容・施設の充実については、当面は1施設に1名の指導医を要することとするが、以下のような条件を満たす施設をモデル施設として、これを目標として今後整備をすすめていくことを考慮する。研修施設はモデル施設をひとつの目標として整備を進め、また学会としても働きかけを行っていく。一方、指導医が在籍しない施設にはその設置について学会として積極的に働きかけをおこなっていく。

【モデル施設として考えられる条件】（数項目を満たす）

- (1) 感染症用の病床を5床以上、有している。
- (2) 感染症外来を有している。
- (3) コンサルテーションを月に20例以上行っている。
- (4) 複数の感染症専門医が常勤している。
- (5) 微生物検査室を有している。
- (6) 感染症科を標榜している。
- (7) 感染症指定医療機関である。
- (8) AIDS拠点病院である。

以上、感染症学会専門医養成のための研修施設・指導医の設立は現時点において可能と判断し、感染症専門医認定研修施設・指導医規約（案）に基づいて平成18年度より制度を開始することとする。今後、次の項目については順次検討を重ね実施に向け努力し、さらに専門医制度の充実をはかっていくこととする。

- 1) 専門医や指導医のための講習会を設ける。
- 2) 海外の感染症専門医資格を持っている方々に感染症専門医取得の道を開く。
- 3) テキストブックの作成を検討する。

- 4) 感染症専門医認定研修施設、指導医規約について
- 5) 研修カリキュラムについて
- 6) 専門医規則・細則

8. ICD制度協議会

新規認定者 203名 更新者 344名

庶務報告

1. 会員数 8883名 平成18年2月28日現在
2. 第79回日本感染症学会総会は平成17年4月14日、名古屋国際会議場において行った。
3. 平成17年度評議員会は平成17年4月14日、名古屋国際会議場において行った。
4. 理事会は5回行った。
5. 感染症学雑誌編集委員会は11回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy 編集委員会は11回行った。
6. 学会賞選考委員会は1回行った。
7. 専門医制度審議会は2回行った。
専門医ワーキンググループ会議は10回行った。
8. 英文誌検討委員会を1回行った。
9. 経理事務打合せ会は1回行った。